

地域と共にある学校づくり

県政タウンミーティング特集

地域をつなぐ公民館の役割を見つめなおす

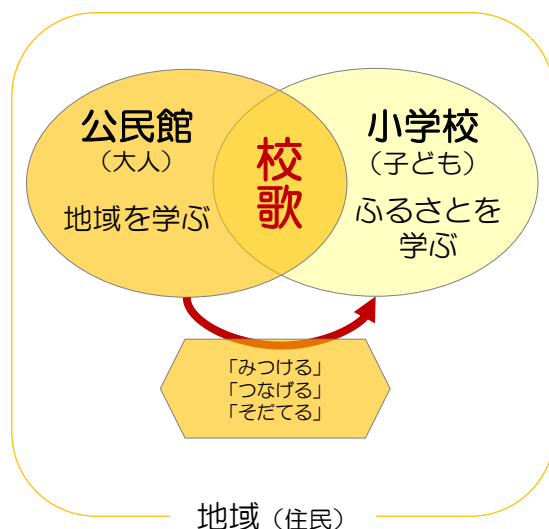
去る5月17日、阿智村中央公民館にて、県政タウンミーティングが開催されました。「全国一の数を誇る公民館を生かした多様な学びの創出」をテーマに、阿部知事と参加者が活発に意見を交わしました。

事例発表から学ぶ——飯田下伊那地域の3公民館の実践

事例1 伊賀良公民館講座『伊賀良を学ぼう』

この講座は、受講者が学習内容を組み立てていく形で進められました。題材は、話し合いにより、伊賀良小学校の校歌に決定。受講者たちが、校歌に登場する人物を調べたり、名所や旧跡等を訪ねたりして、その成果を小学校の授業で児童たちに伝えるという取組になりました。この学習はマップ化され、今後小学校の副教材にすることも検討されているそうです。

大人が地域をみつめ、子どもとつながり、子どもを育てる活動となりました。



事例2 飯田OIDE長姫高校『地域人教育』

地域人教育とは「地域を愛し、理解し、地域に貢献する人」を育成する授業で、生徒は3年間を通じ地域に入って住民の話を聞き、課題を見つけて解決策を考え、実践します。

商業科3年のKさんが「空き家を活用する事業を進める中で、高校生だけだとお金もないし知識や経験もないので、地域の同じような考えの企業さんと会えたので、一緒にやらせてもらっています。」と、空き家を改修してシェアハウスなどとして運営していく様子を語りました。

同校浅井勝巳教諭は「地域人教育は、公民館が地域とつなげてくれることで成り立っている。相談相手としての公民館の存在が大きい。」と話しました。

事例3 阿智村公民館『つながる福島ジュニアユースキャンプあち』

福島県伊達市の中学生を招いたサマーキャンプ等について報告がありました。

この取組は、東日本大震災後、長野県が中心となり被災地の子どもたちを迎えてのキャンプを計画したことに、阿智村も参加したことに始まります。その後も福島県と交流を続けてきた村民からキャンプ実施の要望があり、実行委員会が組織され、実現したものです。

実行委員長の金子智行さんは「キャンプを進めようと考えたときに、まず阿智村の公民館に相談した。何かことを起こそうという時に、公民館の存在が頼りになる。受け入れた阿智村の人々が福島のこと、原発のこと、災害のことなどを学んでいくことが大事」と話しました。

阿智村公民館は事務局として実行委員会に加わり、2回キャンプを実施。地元阿智中学校生徒との交流も行いました。

阿部知事との意見交換を通して――

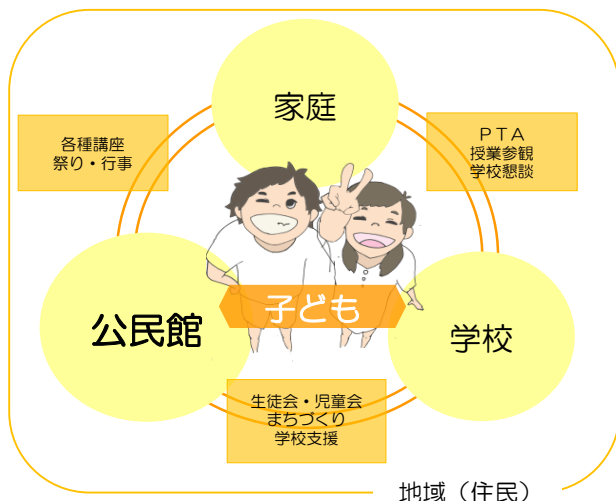
意見交換では、次のようなやりとりがありました。（発言趣旨のみ抜粋）

（阿部：阿部知事 木下：木下^{のりかず}巨一さん（ファシリテーター：飯田市公民館副館長））

阿部「公民館とは、一言でいうと何をする場所ととらえればよいか。」

木下「様々な取組があってよい。しかし、公民館は住民自治の担い手である住民と、支え手である職員（公民館主事）が育つ場である。」

阿部「公民館は自治の力を高める機能がある。活動のすばらしさを県内外に広く伝えていかないといけない。」



現在、長野県の市町村公民館設置数は、現在1,236館。条例で規定されていない自治館まで含めると4,000館を超えます。

公民館との連携による学校づくりは、子どもたちにとって、次のステージ（社会人）へつながる、貴重な学びとなるのではないのでしょうか。

■■ お問い合わせ先 ■■

長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課

☎ 026-235-7437

✉ bunsho@pref.nagano.lg.jp

東信教育事務所生涯学習課 0267-31-0252
南信教育事務所飯田事務所 0265-53-0460
北信教育事務所生涯学習課 026-234-9552

南信教育事務所生涯学習課 0265-76-6861
中信教育事務所生涯学習課 0263-40-1977
長野県生涯学習推進センター 0263-53-8822

この資料は、長野県のHPからダウンロードできます ▶▶ <http://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/bunsho/cs.html>